



大分大学 「現役社長の講話Ⅲ」
室蘭工業大学 「現役社長の講話Ⅴ」

スーパー連携大学院コンソーシアム web ニュース
2016年11月24日

●大分大学「現役社長の講話Ⅲ」

「現役社長の講話Ⅲ」は、8月26日(金)～28日(日)の3日間の日程で大分地区にて開講されました。26日の見学会では、徳器技研工業(株)(大分県宇佐市大根川 318 番地、徳永修一社長)と(株)デンケン(大分県由布市挾間町高崎 97 番地1、石井源太社長)の2ヶ所を訪問しました。受講生は、9名(スーパー連携大学院受講生4名(室蘭工業大学(博士前期2名)、電気通信大学(博士前期1名)、富山大学(博士後期1名))、大分大学(博士前期)5名)でした。

徳器技研工業(株)は、医療機器の製造販売を手掛ける会社で、創業者の徳永社長から医療・介護の現場を重視した医療機器の開発について説明を受けました。(株)デンケンは、半導体関連の検査装置およびデバイス、メガソーラー、健康・医療に係る製品を開発・販売する会社で、本社工場について見学し、全体的な説明を受けました。受講生たちは、介護・医療の現場を重視した徳器技研工業(株)の専門性の高い取り組み方や(株)デンケンにおける事業を拡張させていく展開の仕方に感銘を受けていました。

27日(ホルトホール大分:大分県大分市金池南1丁目5番1号)には、見学先の2社の社長に加えて、建築系企業のアイテック(株) 甲斐厚社長の3人の社長から創業のきっかけや事業展開、経営における考え方などについてお話していただきました。3人の社長とも「継続」という言葉が複数回話の中に出てきました。あきらめずに続けていくこと、やったことを何かに生かしていくように常に意識し続けることなどが、事業を成功に導いたり、新しい事業展開を作り出したりしていくために重要であることを話されました。3人の社長とも最初は社長になることを必ずしも意識していたわけではなく、自分の思いや社会状況の変化に合わせて自分の選べるべき道を模索し、自分の思いを継続していけるようにしたことや自分ができることをきちんと前向きにとらえてやってきた結果であるとも話されていました。受講生はそれぞれの社長の経営者としての生き方を知って、開発や経営ということに今まで以上に関心と興味を高めたようでした。



徳器技研工業(株)見学



(株)デンケン見学



アイテック(株)甲斐社長の講話

受講生の1人は、28日のプレゼンテーションで今回の講義を受講して、自分の得意分野を活かして起業したいと考えるようになったとの思いを語っていました。受講生は経営者が元気で活力にあふれていることも感じ取っており、また、常に能動的に、活発に、そして継続していける行動力・活動力をもつことがとても重要であることを身につけられたのではないかと思います。これには、創業者や経営者の考え方や人生観、仕事への取り組みに直に触れることができたことが大きく、また、受講生のプレゼンやレポートから、学年の異なる受講生との意見交換や日ごろとは異なる環境での授業は、学生により効果を与えており、同世代の視点が異なる考え方に触れることにもなっており、「現役社長の講話Ⅲ」が非常により機会になっていると考えられます。

(氏家誠司 大分大学)

●室蘭工業大学「現役社長の講話Ⅴ」

「現役社長の講話Ⅴ」は、9月6日(火)～8日(木)に実施され、スーパー連携大学院プログラムの受講生として電気通信大学2名、富山大学1名、大分大学1名、室蘭工業大学1名の計5名が受講しました。

1日目は、「鉄のまち室蘭」を象徴する2つの企業を訪問しました。(株)永澤機械(室蘭市東町)では、精密切削加工を中心に、JR用の特殊な軸受けメタルを国内で唯一製造するなど、顧客のニーズに対応したきめ細かな加工技術の現場を、永澤勝博社長の案内で見学させていただきました。次に、(株)日本製鋼所室蘭製作所(室蘭市茶津町)では、民間最大の兵器会社を発祥として培った技術を基に、伝統的な日本刀製作から最新の原子炉に使われる大型鋳鍛鋼品の製作など、世界有数の素形材メーカーとしての現状を、関連会社である日鋼検査サービス(株)の中村毅社長の案内で見学させていただきました。また、帰りの移動時には、室蘭の代表的な景勝地である地球岬に立ち寄り、その後、関東以北では最大の吊り橋である白鳥大橋を渡りました。初めて訪れた受講生は、工場夜景で有名な室蘭の工場地帯の大きさや、特徴のある地形を実感できました。

2日目は、工場見学の内容についてプレゼンテーションを行いました。受講生はそれぞれが感じた2つの企業や地域的な課題・問題点等を発表し意見を出し合うなど、有意義な場となりました。続いて、(株)永澤機械の永澤勝博社長、日鋼検査サービス(株)の中村毅社長、苫小牧港開発(株)(苫小牧市入船町)の石森亮社長の講話が行われました。その後、行われた討論会では、受講生5名に対し社長3名という恵まれた状況で、社長としての心構えや社員への気配りの仕方、社内の決裁方法など、普段直接話す機会の少ない社長という仕事につ



(株)永澤機械工場見学



(株)日本製鋼所室蘭製作所見学



2日目のプレゼンテーション



(株)永澤機械 永澤勝博社長



日鋼検査サービス(株) 中村毅社長



苫小牧港開発(株) 石森亮社長

いて、様々な質問をして活発な議論が行われました。3社長とも、社員をどのように育成するかを常に考えており、社員の資質を十分に理解し、どのようにして社員の個性を伸ばすのかそれぞれの考えをお話いただきました。また、いずれの会社も社内環境の整備に力を入れており、(株)永澤機械では、3K 職場と言われるようになってから、工場内の整理整頓に力を入れ働きやすい職場へ改善したり、製油所や発電所等の設備メンテナンスに関わる非破壊検査等を行っている日鋼検査サービス(株)では、資格を持っている社員が出産で退職した後、子育てがひと段落したら再度就職できるような制度を設けたり、フェリーターミナル運営や工業用地の造成分譲事業等を行っている苫小牧港開発(株)では、港で女性が働きやすいように服装や環境を整備したりするなど、若い人や女性にもアピールできる職場を意識されていました。討論会終了後、学内のレストランで、受講生と講師、空閑良壽学長をはじめ大学関係者も参加し情報交換会が行われ、工場見学や社長講話の内容についての疑問点や、就職について意見を聞くなど活発な会話がなされ、楽しいながらも貴重な時間となりました。

3日目は、まとめとレポート作成時間を設定していましたが、台風13号が接近していたため、後日取りまとめてレポートを提出することとし、自由行動としました。異なるタイプの企業を知ることができたこのプログラムを通して、受講生からは、「自分の足りない部分について理解が進んだ。」、「地方からでも大きく挑戦することのできる考え方を学べた。」などの感想があり、本講義の到達目標としていた「自己の進路について目標を定める。」ことについて考えることができましたと思います。

(山本 渉 室蘭工業大学)



情報交換会